



Chapter1

売上高

2007年度は事業内容再編を行い、第1四半期にてチーズ加工部門及び冷食部門の撤退を決定敢行し、洋菓子製造専業にシフトしました。事業を一旦集約し効率化を図り、将来へ向けての準備に入ります。このため見た目の売上はダウン致しました。(2007年度より税抜き表示としたため、過去のデータも修正致しました) 食品業界全体を覆った「原料高騰」「不祥事」「事件」など、当社にとって下期に当たる2008年に入り起こったこれら逆風が及ぼした影響は少くありませんでした。これらの要素から年間売上目標値9億4千万円にはわずかに及ばず9億1300万円という結果となりました。2008年度については、売上は同等を狙い、中身の改善の年と致します。

Chapter2

商品別構成

上述の通り、洋菓子製造の専業会社として新たなスタートを切りました。洋菓子は、「食」文化の中でも女性と密接な関係があり、また「流行」が存在し常に情報察知が鍵となります。2008年度は、ブランド創設と開発部門の体制強化及び新規販売チャンネルの拡大がテーマです。

Chapter3

営業・経常利益

・留まるところの無い原料価格高騰は製造原価に大きく直接影響致しました。また販売価格への実態転嫁を進めることが非常に困難でありました。

当期利益

・前期に監査法人による大幅な会計見直しを行ったため極端に大きな損失は発生しませんでした。しかしながら特殊要因としての特別販売割戻しが重くのしかかり一時的な特別損失を計上したため、当期利益はわずかとなりました。2008年度は、やはり原料価格の急激な上昇を如何にかカバーするかがテーマとなります。全社一丸となり、改善に努めます。

第32期 修正決算 (平成19年5月31日)(単位:千円)

科目	金額
資産の部	
流動資産	350,358
固定資産	145,911
合計	496,269
負債及び純資産の部	
流動負債	423,756
固定負債	151,015
負債の部 合計	574,771
株主資本	79,473
資本金	49,998
資本準備金	9,998
利益準備金	2,150
繰越利益剰余金	141,619
有価証券評価差額	971
純資産の部 合計	78,502
合計	496,269

第33期 確定決算 (平成20年5月31日)(単位:千円)

科目	金額
資産の部	
流動資産	333,976
固定資産	190,089
合計	524,065
負債及び純資産の部	
流動負債	438,715
固定負債	78,208
負債の部 合計	516,923
株主資本	6,701
資本金	92,475
資本準備金	52,475
利益準備金	2,150
繰越利益剰余金	140,399
有価証券評価差額	441
純資産の部 合計	7,142
合計	524,065

決算公告 貸借対照表の要旨

第32期について
第32期決算について、会計監査人によりさらに厳しく監査を行い修正を行いました。このため、33期確定申告と同時に32期の修正申告を行いました。

第33期について
1について
ベンチャー投資ファンドからの出資を受けました。この結果、**第32期に発生した債務超過は改善致しました。**